



困り感  
・全盲のため、タッチパネル操作ができない。




取り組みの内容・授業の様子等  
☆児童・生徒は、個々に手元のiPadやiPhoneのアクセシビリティでVoiceOverを設定するということで、自分で操作をすることができる。

- 使用アプリ：メール，電話
- 準備物：iPad もしくはiPhone 1台、WiFi環境
- 事前準備：Wi-Fi等インターネット環境でVoiceOverを設定する。
- 活用方法：コミュニケーションの手段にもなり、墨字文書の漢字の勉強にもなる。

◎実際の活用例：  
・対象学年…高等部、教科…自立活動  
・活用後の感想…**友達が使っているのと同じiPhoneやiPadを使うことができてうれしかった。友達とのコミュニケーションや連絡の手段が増えた。墨字文書を作るときの漢字変換の勉強にもなった。**

電話  メール 



成果と今後の課題  
・友達と同じものを使えることが一番うれしかった。  
・生徒のタブレットへの関心が高まった。  
・携帯電話ではできない、他のアプリを使って生活が便利になることを感じた。  
・音声聞き取りづらいことがある。  
・アプリによってはvoiceoverが使えないものがある。